

第69回 消費者行動研究コンファレンス開催のお知らせ

秋の消費者行動研究コンファレンスの開催日程が決定しましたので、ご案内いたします。現在、コーディネーターの石井裕明先生（早稲田大学）、有賀敦紀先生（中央大学）、侯聡聡先生（九州産業大学）を中心にプログラムを検討中です。詳細については次号でお知らせいたします。なお、今回は例年よりも開催時期が遅くなっておりますので、ご注意ください。

開催日程：2024年12月7日（土）・8日（日）

開催場所：大阪大学（豊中キャンパス）

自由論題研究報告など募集！

第69回消費者行動研究コンファレンスにおける自由論題研究報告の報告者を募集します。開催日程（12月開催）の関係で、今回は8月～10月の期間で募集いたします。詳細は、JACS Web サイト（<http://www.jacs.gr.jp/>）をご覧ください。

第68回 消費者行動研究コンファレンス 開催報告 ＜統一論題＞AI と消費者行動研究

2024年5月18～19日、神奈川大学みなとみらいキャンパスにおいて第68回消費者行動研究コンファレンスが対面開催されました。第1日目の午前には松下光司会長による会長講演の他、特集論文セッションの口頭発表、午後には統一論題による基調講演とパネルディスカッションが実施されました。第2日目には自由論題研究報告が行われ、28件という多くの研究発表がなされました。統一論題では「AI と消費者行動研究」をテーマとし、早稲田大学の須永努先生による解題が行われたのち、BI Norwegian Business SchoolのCarlos Velasco先生、流通科学大学の綿貫真也先生、兵庫県立大学の土方嘉徳先生に基調講演を頂きました。後半は、早稲田大学の石井裕明先生が加わり、上智大学の杉谷陽子先生の司会によるパネルディスカッションが行われました。マーケティングにおいてもAIの活用が広がる中、今後の消費者行動研究のあり方をめぐる活発な討議が行われました。懇親会を含めて大変盛況なコンファレンスとなりました。ご登壇頂いた先生方、開催校をご担当いただいた先生方、スタッフの方々に心から感謝申し上げます。

「特集論文」について

- 特集論文セッション（第4期）：
論文受付を2024年10月1日よりスタートします。詳しくは別項（P5）をご覧ください。
- 特集論文セッション（第5期）：
特集テーマを第69回コンファレンスにて発表いたします。乞うご期待ください。

2023 年度決算報告

第 68 回会員総会（2024 年 5 月 18 日）にて 2023 年度決算報告が行われ承認されました。

科 目	2023 年度 予算額	2023 年度 決算額	差 異	2024 年度 予算額
1. 事業活動収入				
会費収入	7,084,000	6,522,000	562,000	7,005,000
学会会員	5,376,000	4,872,000	504,000	5,280,000
学会学生会員	365,000	285,000	80,000	300,000
個人賛助会員	155,000	145,000	10,000	155,000
法人賛助会員	750,000	800,000	△50,000	850,000
滞納等	438,000	420,000	18,000	420,000
コンファレンス収入	1,700,000	1,800,000	△100,000	2,000,000
学会誌販売収入	0	5,940	△ 5,940	40,000
雑収入	0	33	△ 33	0
助成金	500,000	900,000	△400,000	0
事業活動収入計	9,284,000	9,227,973	56,027	9,045,000
2. 事業活動支出				
事務費	1,130,000	1,109,792	20,208	1,779,000
学会誌印刷・発送一式費	0	718,552	△ 718,552	470,000
通信費	120,000	119,559	441	120,000
Web ホスティング サービス利用費	0	60,689	△60,689	61,000
HP 管理業務委託費	860,000	94,380	765,620	858,000
その他	150,000	116,612	33,388	270,000
事業運営費	3,880,000	4,312,350	△432,350	4,065,000
コンファレンス支出(会場費含む)	1,700,000	1,494,206	205,794	1,600,000
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000	200,000	200,000	400,000
コンファレンス Website 管理費	100,000	184,831	△84,831	185,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	300,000	359,778	△59,778	300,000
査読システム運用費	150,000	211,200	△ 61,200	200,000
新査読システム使用料	170,000	120,340	49,660	130,000
学会誌サポート費	360,000	851,995	△491,995	550,000
国際交流事業費	200,000	50,000	150,000	200,000
ワークショップ 開催費(開催補助費)	100,000	40,000	60,000	100,000
学会賞賞金	400,000	400,000	0	400,000
研究助成金	0	400,000	△400,000	0
予備費	4,050,000	5,163,605	△1,113,605	3,700,000
査読(出版)システム開発費	50,000	0	50,000	0
学会誌在庫保管料	—	—	—	200,000
事務委託費	4,000,000	5,163,605	△1,163,605	3,500,000
事業活動支出計	9,060,000	10,585,747	△1,525,747	9,544,000
当期収支差額	224,000	△1,357,774	1,581,774	△499,000
前期繰越収支差額	32,470,479	32,470,479	0	31,112,705
次期繰越収支差額	32,694,479	31,112,705	1,581,774	30,613,705

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事

鈴木 和宏 印

上記の報告を適正なものとして認めます。

監事

高橋 広行 印

特集論文賞受賞者のお知らせ！

各年の応募の中から、コンファレンス特集論文セッションでの発表および『消費者行動研究』の特集論文号に掲載された中から、特に優秀な口頭発表と論文を選定し、その著者に授与されます。

「特集論文（第2期）」特集論文賞（論文）

特集論文賞（論文）は、J-stage に早期公開されました対象論文について、学会賞審査委員会にて厳正な審査を行います。

特集論文（第2期）について、特集論文賞（論文）を受賞されたのは次の方々です。

◆学会誌「消費者行動研究・特集論文号」

早期公開日：2023/12/20

奥付 30 巻 2 号・2024 年 3 月

「性的マイノリティに関する消費者行動研究：既存研究の整理と今後の研究展望」

岡部 沙麗(東京大学大学院)

元木 康介(東京大学)

「ブランド経験研究の現在と展望～実証研究を中心としたシステムティックレビューから～」

國田 圭作(嘉悦大学)

◆本ニューズレターでは、各賞の受賞者を順次ご紹介しております。

今号（P4）では、特集論文（第2期）「特集論文賞（論文）」を受賞された岡部 沙麗氏にご登場頂きました。

「特集論文（第3期）」特集論文賞（口頭発表）

特集論文賞（口頭発表）は、特集論文に投稿されました論文のうち2回の査読を経て特集論文セッション発表に採択されました対象者について、学会賞審査委員会にて厳正な審査を行います。第68回消費者行動研究コンファレンス特集論文セッションより、特集論文賞（口頭発表）を受賞されたのは次の方です。

「家庭における家事ロボット：矛盾する制度ロジックを保有するオブジェクトと消費者との関係構築」

織田 由美子(名古屋商科大学)

—特集論文（第2期） 特集論文賞（論文）—

「性的マイノリティに関する消費者行動研究：既存研究の整理と今後の研究展望」

岡部 沙麗（東京大学大学院）

この度は、特集論文賞をいただき、大変光栄に思います。審査の過程でたくさんの貴重なコメントをいただき、またコンファレンス当日には様々な先生方の発表を拝聴することで、多くの学びを得ることができました。関係者の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

近年、多様性・公平性・包括性が社会的にも学術的にも重要となっています。その中でも、性的マイノリティの社会・経済への影響は年々強まっており、マーケティング戦略においても重要視されることが増えてきました。また、消費者の多様性に着目した、マイノリティ消費者に対する企業のアプローチが求められるようになってきたことから、消費者行動研究における性的マイノリティ研究の必要性が高まっていると言えます。しかし、性的マイノリティ消費者市場に関する文献レビューは近年行われていませんでした。既存研究で見過ごされてきた点や、今後より多くの研究が行われていく上での展望を示すためにも、体系的なレビューが必要であると考え、今回の論文を着想いたしました。

既存研究は、性的マイノリティ消費者に関する研究と、性的マイノリティが登場するマーケティング刺激に関する研究に大別することができます。性的マイノリティ消費者に関する研究では、支配的な異性愛者（非性的マイノリティ）とは異なる消費を行うと考え、性的マイノリティに対する社会的な偏見とそれに対する当事者の意識などに着目しながら、研究を行ってきました。また、多くの研究は性的マイノリティを単一カテゴリとみなし、代表として高収入で購買力があると考えられ

ているゲイを用いていますが、近年ではゲイとその他の性的マイノリティの差異に着目した研究も見られます。しかし未だそういった研究は少なく、ゲイとレズビアン以外を対象とした研究も不足しています。さらに、異性愛消費者と性的マイノリティ消費者の相互作用に関する研究もあまり行われていません。

性的マイノリティが登場するマーケティング刺激に関する研究では、マーケティング刺激の効果に関する研究や、刺激内容による差異に着目した研究、刺激を見て評価する異性愛消費者側の個人特性に着目した研究が行われてきました。そうした研究においては、セクシュアリティと、人種や階級など別のアイデンティティの相互作用であるインターセクショナルリティ、広告以外のマーケティング刺激、時間的影響などを考慮した研究が今後は必要とされていくでしょう。

今回はレビュー論文という形でしたが、私自身も性的マイノリティをはじめとしたマイノリティ消費者の研究に非常に強い関心を持っており、今回示した研究展望を中心としながら、多様性・公平性・包括性の実現に向けて研究を行っていければと思っています。

最後に、この度の受賞にあたり、現在ご指導いただいている東京大学の元木康介先生をはじめ、ご助言いただいた先生方に改めて深く感謝申し上げます。今後もいただいた荣誉に恥じぬよう研究を深化させ、より多くの方が生きやすい社会に貢献できるよう努力を続けてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

10月1日より「特集論文(第4期)」公募を開始いたします

『消費者行動研究』の特別号(2025年刊行予定)に掲載する特集論文を、来る10月1日より受付開始いたします。研究者・大学院生の方々からの、多数の応募を期待しております。

特集テーマ「消費者行動研究と企業や社会の課題」

【1】募集内容

消費者行動研究では、企業や社会におけるさまざまな課題を念頭におきながら、研究課題が設定されることがあります。典型的な例としては、企業のマーケティング課題や、現代の社会が抱える課題を想定し、それと関連づけながら、リサーチ・クエスチョンを設定する研究をあげることができます。消費者行動研究では、理論的貢献はもちろんのこと、それらの課題に関わる実務的貢献まで提示されることがあるのは自然なことです。

そこで、今回は、社会、産業、企業、公的組織、消費者個人など、さまざまな対象が抱える課題を念頭においた消費者行動研究を特集することにします。

研究例としては、次のようなテーマをあげることができます。営利企業のマーケティング意思決定、たとえば、ブランド・マネジメントやマーケティング・コミュニケーションの意思決定課題に対する示唆を与えようとする研究があげられるでしょう。また、環境問題(例えば、消費者の環境配慮行動の促進を意図する研究)や消費者問題(例えば、高齢者の消費者被害の防止を意図する研究)など、現在社会が抱える課題への貢献を意図した研究も、例としてあげることができます。

もちろん、研究テーマは、これらに限るものではありません。消費者に関わることがあれば特定の主体の課題に限定されることなく、自由に設定されて構いません。企業や社会が抱えるさまざまな課題へ貢献することを目指す、意欲的な研究論文の投稿をお待ちしています。

今回の特集論文では、特に若手の研究者および大学院生の皆さんから、新しい視点や独自の視点にもとづく先鋭的な議論を展開していただけることを期待しますが、キャリアを問わず、ご投稿をお待ちしています。

【2】受付期間 : 2024年10月1日～2025年1月7日

【3】応募方法 : 論文原稿(注釈、図表・参考文献含み10ページ以内)を学会事務局に添付ファイルでメール送付してください。[学会事務局/jacs@asas-mail.jp]

【4】出版までの流れ : 査読審査にて採択された論文は、2025年春のコンファレンスでご発表頂いたのち、再度の審査を経て、同年12月にオンライン版として先行出版予定です。

【5】特集論文賞 : 各年の応募の中から、コンファレンス特集論文セッションでの発表および『消費者行動研究』の特集論文号に掲載された中から、特に優秀な口頭発表と論文を選定し、その著者に授与されます。受賞対象はJACS会員とします。

◆詳細なスケジュール、応募方法、査読プロセスなどに関しましては募集要項をご参照ください◆

<https://www.jacs.gr.jp/conference/tokushuronbun-4/>

学会費の「銀行振込」についてのお願い

会費納入に際しましては、事務局から郵送でお送りしている「郵便局の振込用紙」でのお振り込みをお願いしておりますが、銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mailにてご一報いただきますようお願い致します。

ご所属・ご住所の変更についてのお願い

★ご登録の所属先等が古いまま、更新されていない方が多く見受けられます。

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。お手数ですがよろしくお願いいたします。

なお、会費納入時、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記されるケースが見受けられますが、変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。

JACS Website

(<https://www.jacs.gr.jp/admit/#change>) からご自身でも直接変更可能ですので、是非ご利用ください。

新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は
学会 Website (<https://www.jacs.gr.jp/admit/>) から入会申請を行ってください。

●入会資格

[学術会員]

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部科学省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。

但し、学術会員 1 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

●入会規定 <https://www.jacs.gr.jp/admit/>

●年会費

※令和 3 年度（2021 年度）より

[学術会員] 12,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円

法人会員 1 口 50,000 円

★法人会員には会員特典がございます。

詳しくは学会 Website

<https://www.jacs.gr.jp/info/#practitioner>

「賛助会員：会員特典」をご覧ください。

●日本消費者行動研究学会（JACS）事務局のご案内●

（事務局）小樽商科大学商学部 鈴木和宏研究室
〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
Email: jacs.assist@gmail.com

（事務取扱）日本消費者行動研究学会 事務取扱
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 4F
一般社団法人 学会支援機構内
Tel: 03-5981-6025 / Fax: 03-5981-6012
Email: jacs@asas-mail.jp



<JACS Website>

<https://www.jacs.gr.jp>